



—東地中海地域ニュース—

パレスチナ：中東和平問題に関する PA 大統領・米国務長官会談

(10月31日—11月2日付現地報道)

10月31日、アブダビにてアッバース PA 大統領とクリントン米国務長官の会談が行われた。なお、これに先立つ10月30日、アッバース大統領は、ミッチェル米中東和平特使とも会談した。

1. アッバース大統領のクリントン長官との会談後の記者会見発言 (パレスチナ WAFA 通信)
 - (1) パレスチナの土地における入植活動が凍結される前に和平交渉が再開されることはない。和平交渉は、1967年の国境にもとづき、東エルサレムを首都とするパレスチナ国家の樹立を保障するものでなければならず、難民の帰還権を確認する。
 - (2) 米政府に対し、真剣な交渉の開始に相応しい環境を醸成するため、イスラエルが入植活動とエルサレムに対する継続する敵対行為を停止するよう、イスラエルに対する圧力の行使を要請した。パレスチナ問題の公正な解決に至る和平プロセスへ向けた如何なる動きにとっても、入植活動は障害である。
 - (3) イスラエルによるエルサレムのユダヤ化は、失敗する試みであり、これによりパレスチナ人がエルサレム自国の首都とすることを断念することはない。エルサレムはパレスチナ人にとっての永遠の首都であり、エルサレムをユダヤ化する試みは、無効であり、法的根拠がなく、非合法である。
 - (4) エルサレムに対するイスラエルの敵対行為に国際社会が沈黙し、イスラエル政府が和平の基本原則、特にロードマップを無視し続ける場合、中東地域は暴力の悪循環に曝されることになる。
 - (5) パレスチナ人の諸権利とエルサレム救済のため、イスラエルに対して明快な厳しい立場を迅速に示すことが必要であり、イスラエルが国際法や国連憲章に従うことが重要である。これを踏まえ、中東地域の安全と安定にとっての鍵であるパレスチナ問題に対する責任を全うするよう、国際社会に要請する。

(6) (アル・アクサー・モスクの地下掘削を含むエルサレムに対するイスラエルの諸行為を激しく非難した上で) イスラエルはレッドラインを越え、油に火をつけ、暴力を煽っており、和平への道は閉ざされ、中東和平プロセス活性化のための努力は吹き飛ばされている。

2. アブー・ルディネ PA 大統領府報道官の発言 (11 月 2 日「アル・クドゥス」紙)

(1) 米政府は、オバマ大統領がカイロ大学で「入植活動の完全な凍結を求める」と述べたことに関し、約束事から後退し、コミットメントを履行出来なかった。

(2) ワシントンは、イスラエルに入植活動を凍結させることが出来ず、それに必要で十分な圧力も行使しなかった。

(3) 米政府が入植活動を凍結するようイスラエルを説得出来なかったのに、如何にしてイスラエルに西岸だけでなく、東エルサレムからも撤退させることが出来ようか。

(4) 和平プロセスは行き詰まっている。近く、我々はアラブ諸国外相に対して現状を説明する。今後の局面におけるパレスチナとアラブ諸国の統一した立場を形成するため、アラブ・フォローアップ委員会の開催を要請した。

(5) パレスチナ側は、和平交渉再開の前に、全ての入植活動の凍結が必要であるとの確固たる立場を引き続き堅持している。

(6) 入植活動の凍結なくしての交渉は、更なる時間の浪費である。パレスチナ側は米政府に対し、自らの立場を極めて明快かつ重大なものとして伝えた。和平交渉は、1967 年 6 月 4 日の国境より、東エルサレムを首都とするパレスチナ国家の樹立を目的として行わなければならない。